

一茶ゆかりの里四季の俳句会 (令和四年七月〜九月分)

選者 志やくなげ 高野 閑林 先生

一般の部

特選天 夕立や老いた身忘れ走りだす 長野市 浦野 スミ子

普段は老いた身で走り出すことはありませんが、突然の雨で走りだしたという。老いを忘れる一瞬の出来事をとらえた諧謔味のある佳句です。

特選地 踊の輪見やう見まねに加はりぬ 千葉県 安田 蝸牛

盆踊は自分も踊ってみたくありません。踊りがおぼつかなくても踊り輪に加わることが第一です。上手な人の後について。あとは想像にまかせます。

特選人 百選の水に名代の新豆腐 千葉県 安田 蝸牛

豆腐は九十パーセント程が水分です。おいしい豆腐はおいしい水からできます。水自慢して売れている新豆腐が目につかびます。

入選	野良仕事鉢巻からの玉の汗	群馬県	竹渕	洋子
入選	汗の日の馳走のお茶と塩むすび	群馬県	仙田	美名代
入選	万緑の山をダム湖に落しけり	群馬県	鈴木	百合子
入選	長き夜や「アンネの日記」完読す	群馬県	竹渕	てる子
入選	ファイナーレは校歌斉唱秋立つ日	千葉県	杉木	多美子
入選	高級魚やせた秋刀魚の売られをり	群馬県	滝澤	照香
入選	満腹の入道雲の動かざる	群馬県	櫻井	なるみ